

用のシリンジがないワクチンでは1本ずつ準備時にシールやワクチン名を書き区別しておくなど、二重、三重にチェックする。同胞が多いときなどは、対象者とワクチンを間違えないように年長者から行うなど工夫する。同胞で同じ種類の接種を行う際、ロットが異なることがあり注意が必要である。

▶ワクチンの使用期限の確認：すべてのワクチンで使用期限の確認が必要である。最近ではワクチンシールに使用期限が記載されている。

▶対象年齢の確認：DPT(DPT-IPV)は生後3か月から接種対象であるが、1日でも早いと定期として認められない。生後2か月すぐにHib、小児用肺炎球菌ワクチン接種を行った際、4週間(28日)後にDPT(DPT-IPV)と一緒にを行う際は、生後3か月に達していないこともあるため注意が必要である。

●まちがえやすい接種間隔

▶生ワクチンを含む同時接種では、次の接種は27日間あけて(4週間後に)行う。

▶不活化ワクチンのみの同時接種では、他の種類のワクチンは6日間あけて(1週間後に)行うことができる。

▶同じ種類のワクチンは規定の間隔を守る。DPT(DPT-IPV)とHibワクチンは最低3週間間隔で接種できるが、小児用肺炎球菌ワクチンは4週間後にしか接種できない。したがって、DPT(DPT-IPV)、Hib、小児用肺炎球菌ワクチンの3つを同時接種するときは、4週間後に再度3つを同時接種するとまちがえにくい。

●同時接種の禁忌：ガイドラインで示されている接種時の禁忌に準じる。

●副反応が予想されるとき：禁忌ではないが接種するワクチンで強い副反応が予想されるときは、そのワクチンは同時接種ではなく単独接種を考慮する。具体的には、強い卵アレルギーをもつ児へのインフルエンザワクチンや、麻疹ワクチンを含むMRワクチン接種後(通常2か月以内)に起きた血小板減少性紫斑病では、追加(第2期)のMR接種は禁忌ではないが、接種を行うかどうか十分な検討が必要である。接種を行う場合も、単独接種または単価ワクチンを考慮する。

予診票

●同時接種では、同じ内容の記載を減らすことで、同時接種が行いやすくなる。予診票の改正も効果的である。

●実際に大阪府富田林市などで使用されているHibと小児用肺炎球菌の予診票①、ふじおか小児科(大阪府富田林市)で使用している任意接種用の予診票②を示す。

関連法令通知

●同時接種に関する記載は「予防接種法第5条第1項の規定による予防接種の実施について」*5の別添「定期接種実施要領」にあるだけである。そのな

*5
平成25年3月30日付け健発
0330第2号厚生労働省健康局
長通知、25年4月1日適用。